

トトロの木の下

周囲は牧之原台地の東端の谷底低地に位置し、田畑が広がる中にある、ひとつの集落のような地域。

近隣の家々とは軒並み揃えて寄り添うように建ち並び、
なにか…懐かしいにおいがした。

ふと気がつくと、南側の小高い丘の上に、大きな木が立ちはだかっていた。

なんだろう…？

あんなところに…？

とても、とても不思議だった。

近くまで行ってみると、そこには小さな社があった。

なぜここにあるかは分からないが、この大きな木は小さな社を守り、
小高い丘の上に立って集落を見下ろし、守り神としてここに存在するのだろうと、
私は勝手に想像した。

そんな不思議な土地に家を建つという計画が始まろうとしている中、
私には、現代の住まいという小さな社会をただ単につくるということに
違和感を覚えた。

単純に利便性や機能性のみを追及し、周囲との関わりを閉ざしてしまう
ような住まいの在り方ではなく、元よりあるこの地域の在り方や風土を
見逃さないで、この場所でしかない環境だったり物事を自然に受け入れる
家づくりをしたいと思うのだ。

大きな木の下で人々がくつろぐように…

そこには制限はない。

自由に感じ、自由に触れる住まいの根源を見つめていきたいのだ。

まさに、トトロの木の下。。を思い描く。

愉快的物語の始まりなのだ。